

2019 年度受賞者の活動報告

この度はご支援賜りまして誠にありがとうございます。この1年間の活動をご報告させていただきます。

この1年間は将来の方向性を定めるために悩み抜いた1年でした。昨年、受賞祝賀会でのスピーチにて、「社会課題を見過ごさず、率先してその解決に向けて行動できる人になりたい」とお話しさせていただきました。その目標の解像度を高めるため、またその目標から逆算して今自分がすべきことを見定めるために、今まで以上に多様なことに挑戦し視野を広げ、模索した1年でした。

研究では、この2年間取り組んできた前立腺癌研究において、新たな前立腺癌制御メカニズムの可能性を見出すとともに、国際癌学会での発表を経験させていただきました。

また、研究外の活動では、病院でのアルバイトや、現在よりも基礎に近い研究室での研究補佐に従事させて頂き、より医療現場や研究における経験・知見を深めることができました。さらに、就職活動を支援する NPO 法人において、組織運営やサービスの企画・実行を通しビジネスに近い領域での経験も得ることができました。

このような経験を通し、研究の道に進むのか、ビジネスの道に進むのか悩みましたが、最終的には、来年度より総合商社の医療事業分野への就職を決めました。この選択をした理由は二つあります。一つ目に、自分の現状から最も遠い領域で挑戦し、視野を広げ、新たなスキルを身につけることで自身を成長させたいと思ったからです。そして二つ目に、医療や研究の発展のための触媒になりたいと思ったからです。医療や研究領域はまだ閉鎖的であると感じています。特に医療は人命に関わることから、変化を好みにくい業界です。しかし、これらの発展・貢献を最大化するには、業界内部の視点に寄り添いながらも、外部の視点や技術との掛け合わせが重要になってくると考えます。そこで私はその架け橋になりたいと考えました。就職先は、院卒女性は同期の1%、医学部の出身者は初めてとのことで、自分の医療や研究のバックグラウンドをベースに、ビジネスの専門性を融合させることで、上記のような役目を果たせるよう尽力したいと思っています。

最後になりましたが、コロナ渦の不安が続く中でも、このような1年を送れましたことは、ご支援いただきました久能悠子様はじめ、支えて下さった皆さまのおかげだと感じております。心より感謝致します。

まだ大変未熟ではございますが、関わり、支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちを忘れず、いつか社会貢献という形で恩返しができるよう、謙虚に誠実に尽力して参りたいと思っております。

またこのようなご時世の中、ご報告の機会を頂きましたこと心より感謝致します。